

授業紹介

「キャリア形成総合演習I」 (ニュースを読み解くー実践的メディア論)



山陽新聞社社員から指導を受ける学生たち▲

科目区分：教養教育 主題科目（現代の科目）

時 限：木曜日 2限（10：20～11：50）

授業概要：報道の第一線で活躍する山陽新聞記者らが講師となり、現場感覚に満ちた新聞論、ジャーナリズム論を展開し、学生が情報を主体的に選別・獲得する能力・態度を高める。また授業の一環として岡山大学体育会機関紙「岡大スポーツ新聞」を発行し、文章力、表現力、コミュニケーション能力の向上を図る。

大学につきものなのが「名物講義」。本学でも現在、さまざまな特色ある授業が行われています。意外と知られていないそんな「名物講義」を取り上げ、ご紹介するこのコーナー。第二回目は教養教育・主題科目「キャリア形成総合演習I」です。



*岡スポ…岡山大学体育会機関紙「岡大スポーツ新聞」のこと。年2回発行

▼ねらい

現代の情報化社会において、人々のメディアに関する正しい認識や判断能力が必要とされています。本学におけるメディア論の講義の必要性を感じていた時、「岡スポ*」が不定期ながらも刊行されていることを知りました。そこで、現場の記者の臨場感溢れる講義を通して、メディア論を学び、かつ自分たちで「岡スポ」を作ることにより、メディアについて深く学べれば、とこのような講義を企画しました。また、新聞を作る取材や編集の過程の中で、表現力や文章力・コミュニケーション能力の向上を図りたいと考えています。（コーディネーター・学生支援センターキャリア支援室 三浦孝仁教授）

▼構成

この授業は山陽新聞社社員による「新聞ジャーナリズム論」などの講義と、学生たちが「岡スポ」を自らの手で作りあげる演習とで構成されています。演習では、学生たちが取材から原

稿執筆・編集まで、実際の新聞とほとんど同じ工程で新聞作りになります。

記事は体育会所属運動部の試合の模様を取材したものがほとんどですが、最近では文化系の記事も増えつつあります。新聞作成にあたっては、一線で活躍している山陽新聞社の記者の指導を受けます。「写真も学生が撮りますが、素人はどうしても集合写真を記事に使用してしまいます。しかし、スポーツ新聞では躍動感こそが重要なので、競技中の写真を使うようにと指導を受けました」（三浦教授）という興味深いエピソードもあります。

▼体験

7月16日（木）、山陽新聞本社で行われた演習に参加しました。この日の演習は、前期の終盤ということもあって、「岡スポ」の記事原稿はもうすでに完成しており、完成原稿を新聞紙面に落としていく作業でした。本職の記者が、実際に専用ソフトを用いた新聞のレイアウトの作り方や、どのようにタイト

▼反響

ルをつけければ読者の興味をひくか、など熱心にアドバイスをし、学生たちは実際の新聞記者さながらの真剣な表情で話し合い、パソコンに向かっていました。

受講者にとっても好評で、中には「今まで、政治などに関心がなかったのに、この授業を受けたことで、さまざまな分野に興味を持つようになった」という感想もあります。また、この授業を受けたことがきっかけで、新聞社などメディア関係に就職した学生も少なくありません。授業で作った「岡スポ」は山陽新聞に折り込み、本学近辺の家庭に配られたり、本学卒業生などに送付しています。「岡大にこんな部があるんだ」と改めて母校のことを知るきっかけとなった、と高評価を得ているとのこと。

「キャリア教育」と「地域貢献」という二つの面で、非常に有意義な授業であるといえます。